



GRIPS

政策研究大学院大学
NATIONAL GRADUATE INSTITUTE
FOR POLICY STUDIES

大学活動の充実に向けた寄附に関するアンケート 集計結果

令和4年3月

GRIPS

*Gateway to
Global Leadership*



アンケート調査の方法と調査項目

- ①調査対象 : 国立大学法人九州大学の同窓生
- ②調査期間 : 2021年11月19日～11月28日
- ③依頼・回答方法 : 九州大学校友会事務局より校友会ウェブサイト に登録している同窓生にメールにて依頼。Webアンケートを活用し、メールに記載したURLから回答。
- ④調査対象数、回答数: 計5,549人 回答数: 677 回答率: 約12% 有効回答数: 622
- ⑤質問項目・設問数 : 6項目18問

	調査項目	内容
1	基本属性	性別、年代、在籍経験、所属学部、奨学金受給経験
2	寄附経験	九州大学、その他機関(他大学、小中高等学校、ふるさと納税、日本赤十字・社会福祉法人、公益法人・NPO法人、政治団体・宗教団体、クラウドファンディング型、その他)
3	大学の印象	教育・研究の満足度、大学生活の満足度、大学のビジョンへの共感、大学活動の社会的有益性、大学への愛着
4	阻害要因	寄附する際に障害となったこと、寄附に至らない理由
5	税制	寄附金控除制度及び税額控除制度の認知、活用
6	寄附意向	大学からの広報・説明と今後の寄附可能性の関係

属性分布(性別、年齢、在籍経験、在籍学部)

幅広い年代及び学部から回答を得た。特に70歳以上の回答割合が高い。

項目	回答	割合	度数		項目	回答	割合	度数
性別	男	87.8%	517		在籍学部	文	4.8%	22
	女	11.9%	70			教育	2.2%	10
	無回答	0.3%	2			法	17.9%	82
	合計	100.0%	589			経済	15.5%	71
年齢	20歳代	8.0%	49			理	9.8%	45
	30歳代	16.5%	101			医	2.2%	10
	40歳代	12.6%	77			歯	3.9%	18
	50歳代	14.9%	91			薬	2.2%	10
	60歳代	20.8%	127			工	33.3%	152
	70歳以上	27.3%	167			芸工	1.1%	5
	合計	100.0%	612			農	6.3%	29
在籍経験	学部	83.7%	502			21世紀	0.2%	1
	修士	32.2%	193		その他	0.4%	2	
	博士	12.2%	73		合計	100.0%	457	
	合計	100.0%	600					

過去5年間の大学への寄附、他の機関への寄附

- 大学への寄附者は約4割
- 大学への寄附者層は、非寄附者層に比べて「公益法人・NPO法人」、「日本赤十字・社会福祉法人」、「小・中・高等学校」への寄附割合が高い。

九州大学への寄附の有無

回答	割合	度数
寄附なし	62.8%	342
寄附あり	37.2%	203
(回数の内訳)		
1回	15.2%	83
2~3回	13.2%	72
4回以上	8.8%	48
	100.0%	545

九州大学への寄附の有無と他の機関への寄附の関係

項目	回答	寄附あり		寄附なし		全体	
		割合	度数	割合	度数	割合	度数
他の機関への寄附	なし	10.9%	22	31.3%	107	23.7%	129
	ふるさと納税	43.6%	88	43.6%	149	43.5%	237
	公益法人・NPO法人	36.1%	73	17.3%	59	24.2%	132
	日本赤十字・社会福祉法人	28.2%	57	17.8%	61	21.7%	118
	クラウドファンディング型寄附	19.8%	40	17.0%	58	18.0%	98
	小・中・高等学校	22.3%	45	1.8%	6	9.4%	51
	他の大学	7.4%	15	3.2%	11	4.8%	26
	政治団体・宗教法人	4.0%	8	1.8%	6	2.6%	14
	その他	18.8%	38	14.6%	50	16.1%	88
	合計	100.0%	202	100.0%	342	100.0%	545

年代及び在籍経験と大学への寄附との関係

- 寄附者層は60歳以上が多い。年齢が高いほど寄附する傾向(統計的に有意)。
- 学部経験のある人は、ない人に比べて寄附している(統計的に有意)。

年代と大学への寄附との関係

回答	寄附あり		寄附なし		全体	
	割合	度数	割合	度数	割合	度数
20～39歳	8.7%	12	91.3%	126	25.3%	138
40～59歳	34.6%	53	65.4%	100	28.1%	153
60～69歳	50.5%	56	49.5%	55	20.4%	111
70歳以上	57.4%	81	42.6%	60	25.9%	141
無回答	50.0%	1	50.0%	1	0.4%	2
合計	37.2%	203	62.8%	342	100.0%	545

在籍経験と大学への寄附との関係

在籍経験	寄附あり		寄附なし		全体
学部のみ	42.4%	142	57.6%	193	335
学部・修士	31.0%	22	69.0%	49	71
学部・修士・博士	20.0%	6	80.0%	24	30
学部・博士	36.4%	4	63.6%	7	11
修士のみ	22.2%	14	77.8%	49	63
修士・博士	20.0%	1	80.0%	4	5
博士のみ	38.1%	8	61.9%	13	21
学部経験あり	38.9%	174	61.1%	273	447
学部経験なし	25.8%	23	74.2%	66	89

大学との関係性と大学への寄附との関係

- 同窓会に参加経験のある人は、ない人に比べて大学へ寄附する傾向。特に3回以上の参加者の寄附割合は7割を超えている。統計分析結果より、同窓会の参加により、寄附確率は2倍に高まることがわかった。
- 同窓会への参加率は年代により異なる。60歳以上で特に高い。

同窓会の参加と寄附の有無

回答	寄附あり		寄附なし		全体	
	割合	度数	割合	度数	割合	度数
参加していない	28.1%	100	71.9%	256	65.5%	356
1~2回程度	43.4%	46	56.6%	60	19.7%	106
3回以上	72.2%	52	27.8%	20	14.8%	72
無回答	45.5%	5	54.5%	6	100.0%	11
合計	37.2%	203	62.8%	342	100.0%	545

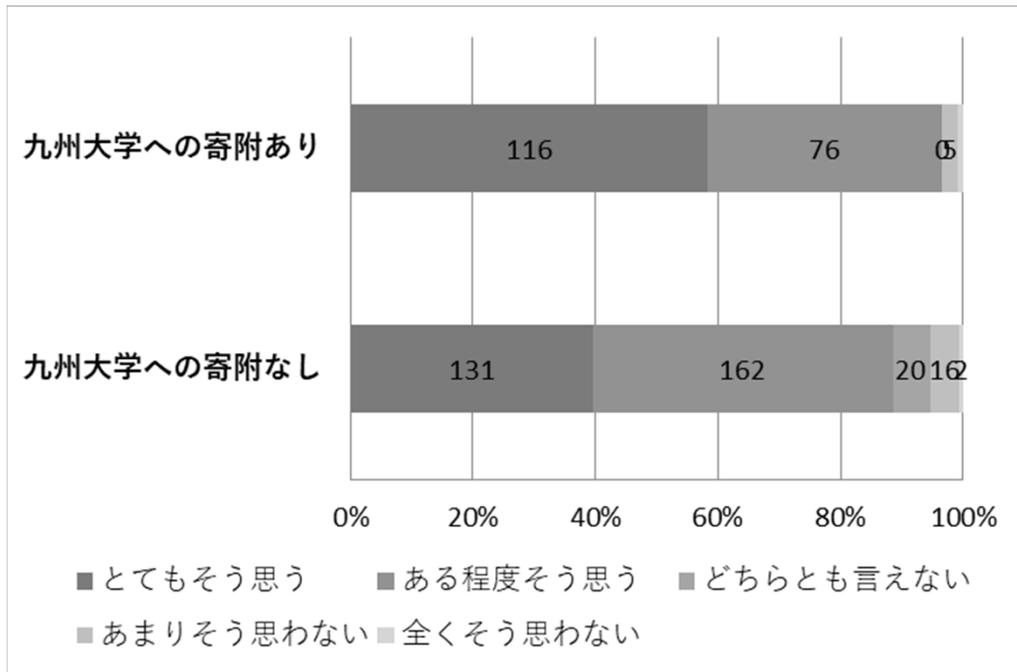
年代別の同窓会参加率

回答	参加していない		1~2回		3回以上	
	割合	度数	割合	度数	割合	度数
20~39歳	73.5%	108	21.1%	31	5.4%	8
40~59歳	71.8%	117	15.3%	25	12.9%	21
60~69歳	57.9%	70	21.5%	26	20.7%	25
70歳以上	57.4%	89	21.9%	34	20.6%	32
合計	65.5%	384	19.8%	116	14.7%	86

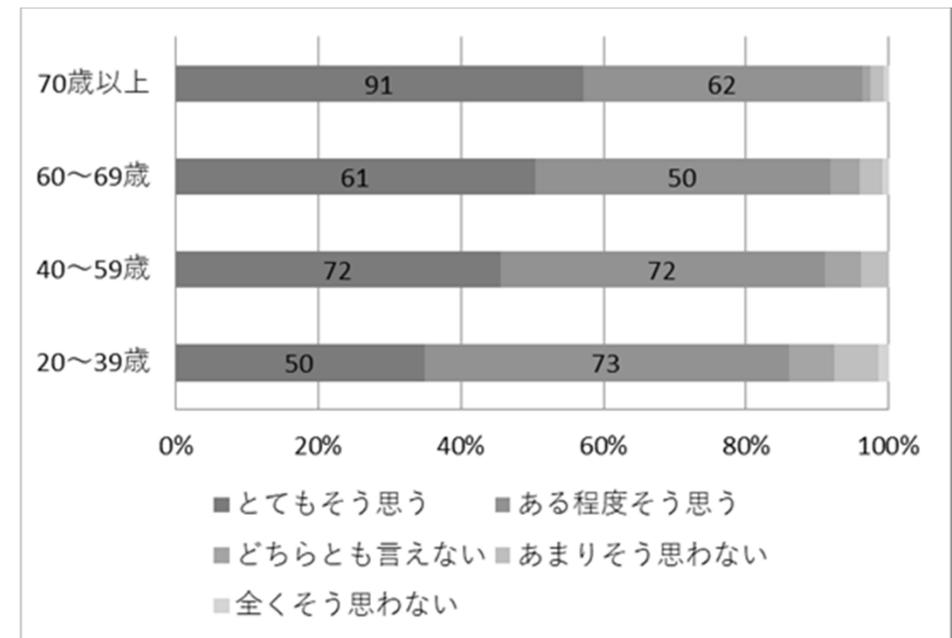
大学との関係性と大学への寄附との関係

- 大学への愛着度は、非寄附者層に比べて寄附者層が高く(統計的に有意)、愛着度が高まるほど寄附する傾向。
- 愛着度は年代により異なり、若年層の愛着度は低く、年齢層が上がるほど愛着度も高まる。

大学への愛着と寄附の有無



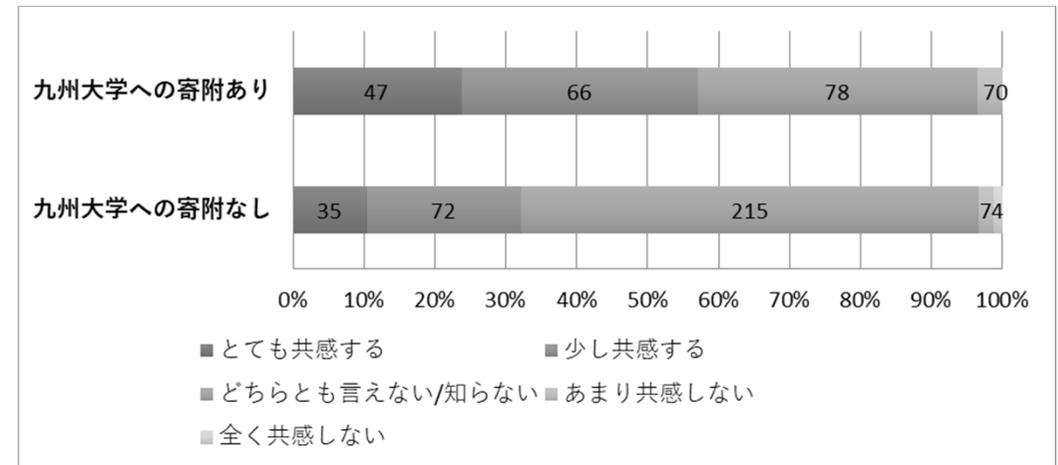
大学への愛着【年代別】



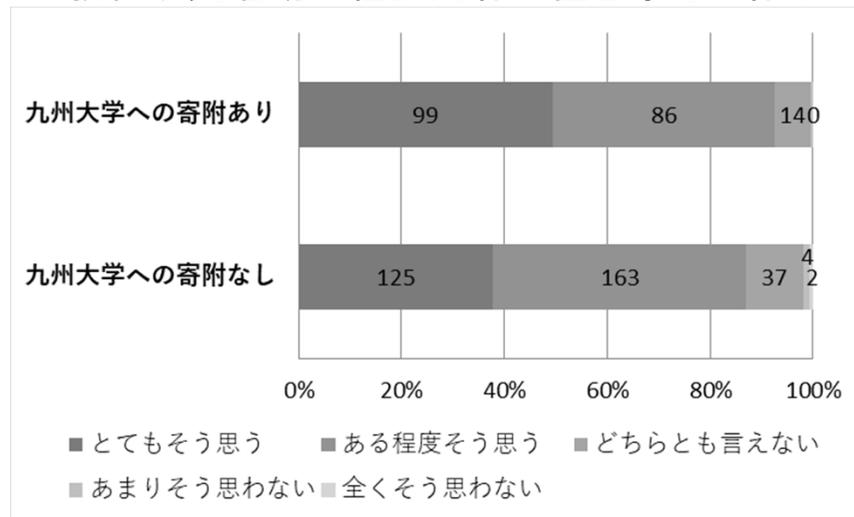
大学活動への共感と大学への寄附との関係

- 非寄附者層は、大学のビジョンを「知らない」又は「どちらとも言えない」とする割合が高い。
- 社会的有益性への共感は、全体的に高く、寄附者層と非寄附者層で統計的に有意な差は見られない。

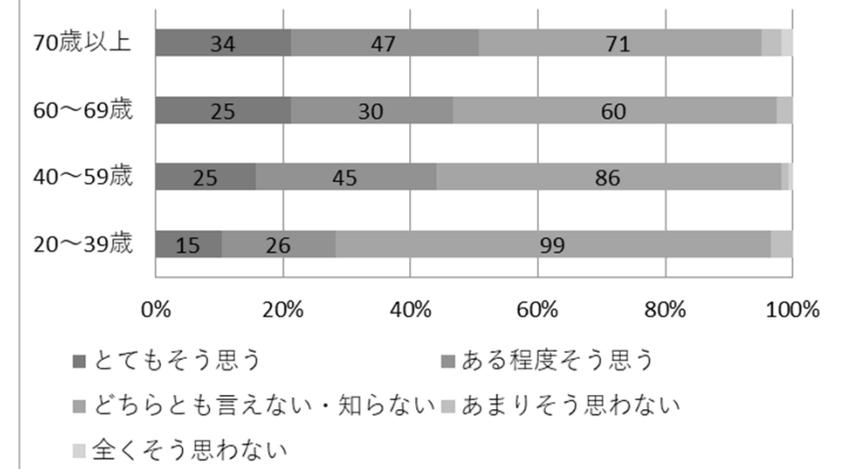
大学ビジョンへの共感と寄附の有無



教育研究活動の社会的有益性と寄附の有無



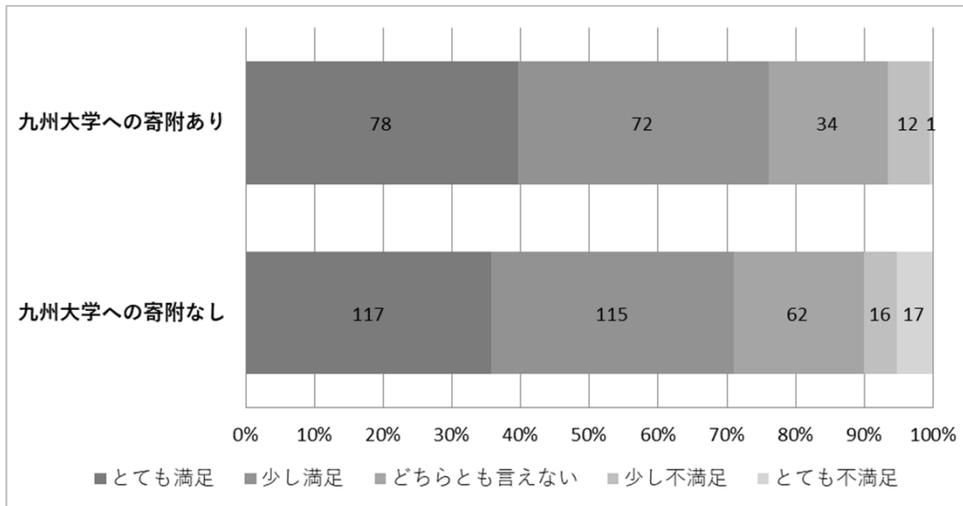
大学ビジョンへの共感



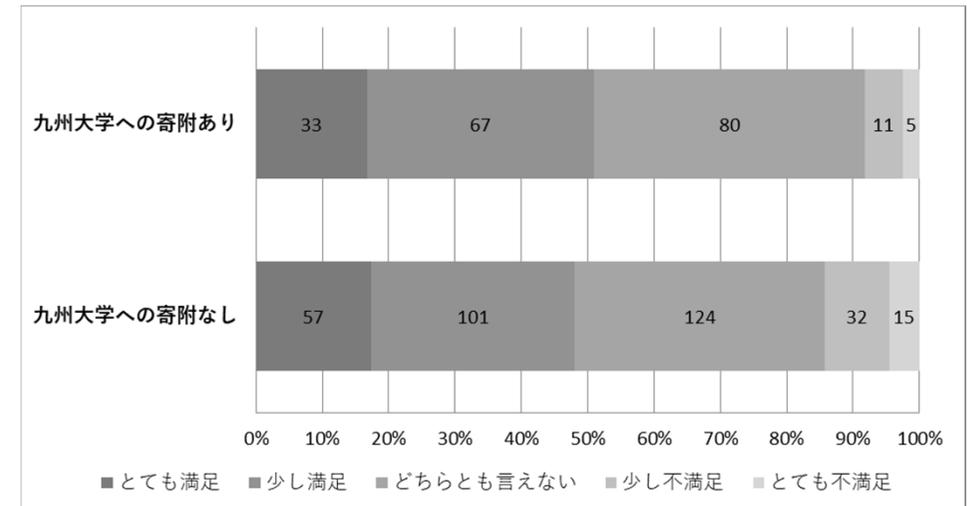
大学在学時の経験と大学への寄附との関係

教育研究指導に対する満足度は、寄附者層と非寄附者で若干の有意差が見られるが、大学生活満足度、奨学金受給経験については有意差が見られない。

教育研究指導に対する満足度



大学生活に対する支援の満足度



奨学金受給経験と寄附の有無

回答	寄附あり		寄附なし		全体 度数
	割合	度数	割合	度数	
受給していない	34.9%	89	65.1%	166	255
学部で受給（大学より）	48.6%	17	51.4%	18	35
学部で受給（大学以外より）	40.6%	80	59.4%	117	197
修士・博士で受給（大学より）	13.6%	3	86.4%	19	22
修士・博士で受給（大学以外より）	27.8%	27	72.2%	70	97
合計	37.2%	203	62.8%	342	545

税制の認知と大学への寄附との関係

寄附金控除制度の認知度は高く(8割)、利用割合も高い(46%)。他方で、税額控除制度の認知度は低く(19%)、利用割合も低い(6%)。税制の認知と寄附の有無には有意な関係が見られる。

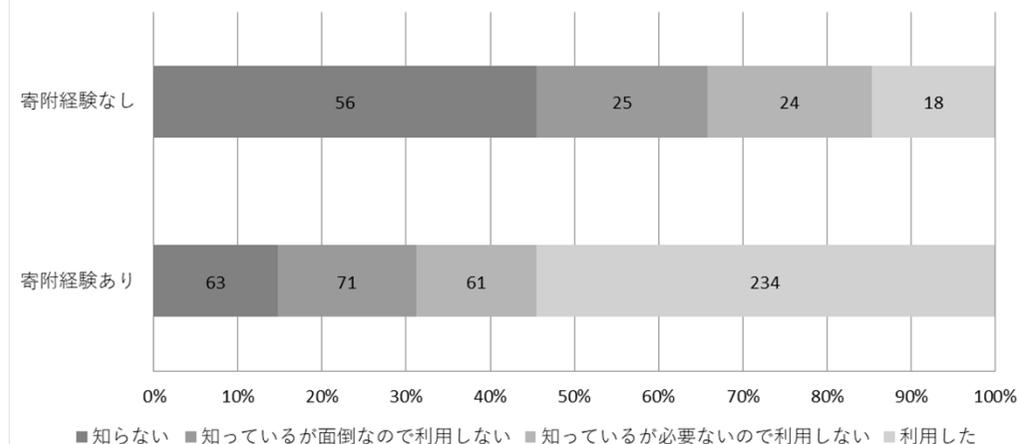
寄附金控除制度の認知

回答	割合	度数
知らない	21.5%	119
知っているが面倒なので利用しない	17.4%	96
知っているが不要なので利用しない	15.4%	85
利用した	45.8%	253
合計	100.0%	553

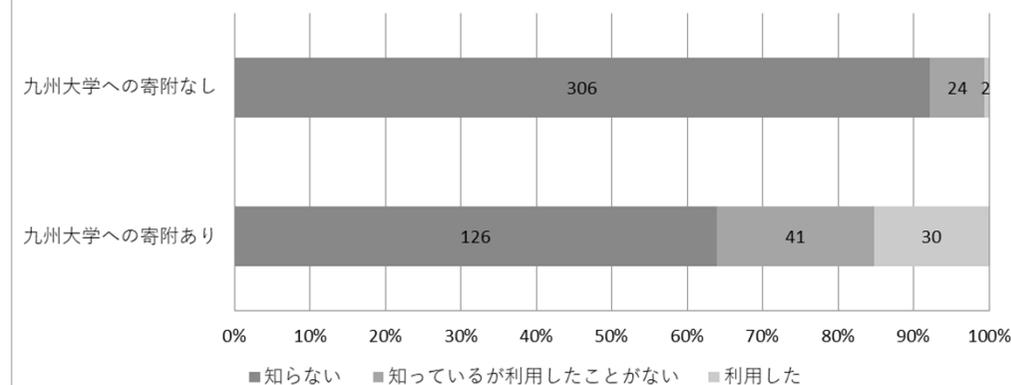
大学に対する寄附の税額控除制度の認知

回答	割合	度数
知らない	81.3%	474
知っているが利用したことがない	12.5%	73
利用した	6.2%	36
合計	100.0%	583

寄附経験の有無と寄附金控除税制の認知との関係 (N=552)

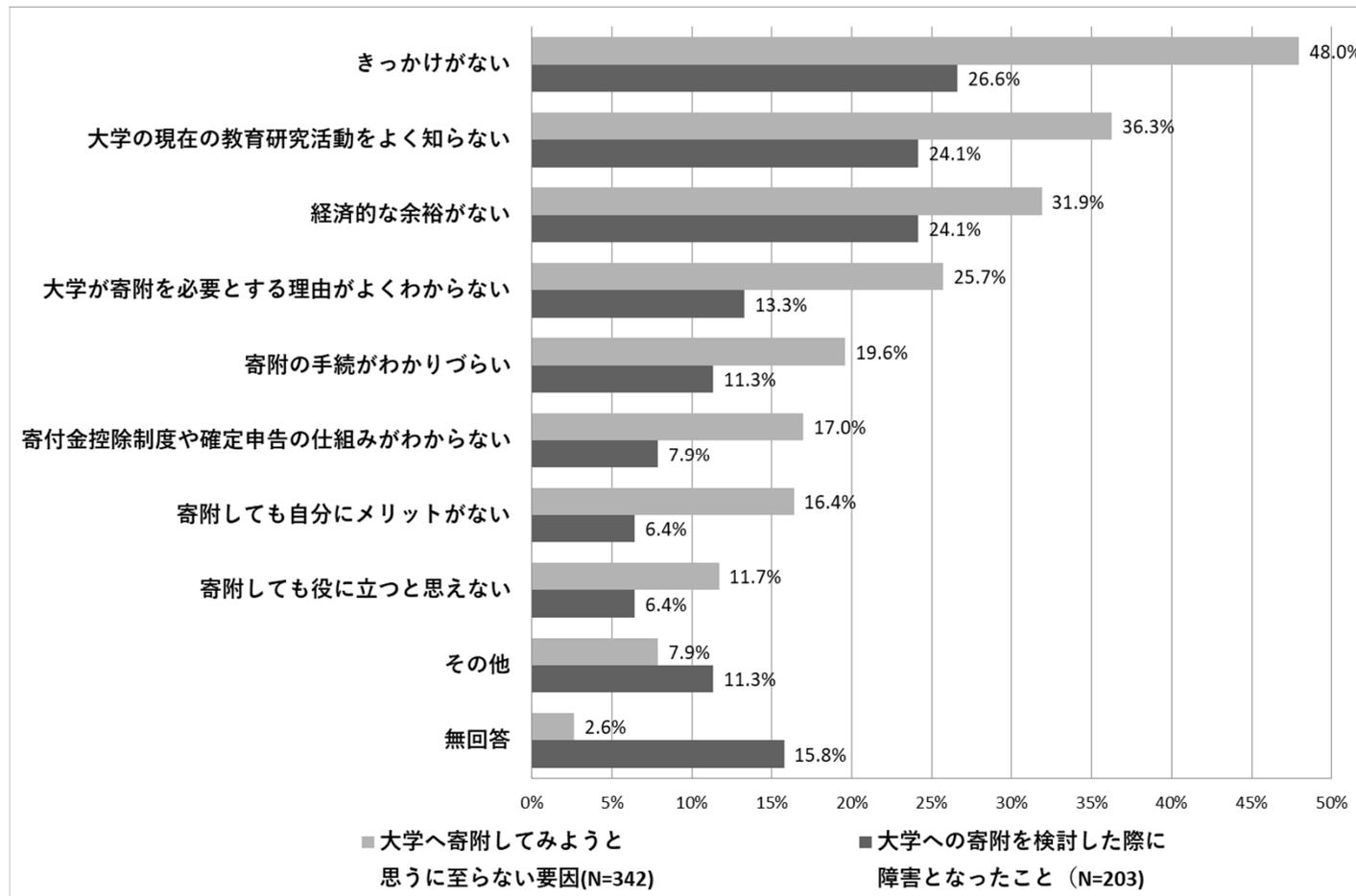


九州大学への寄附の有無と大学への寄附に関する税額控除の認知との関係 (N=529)



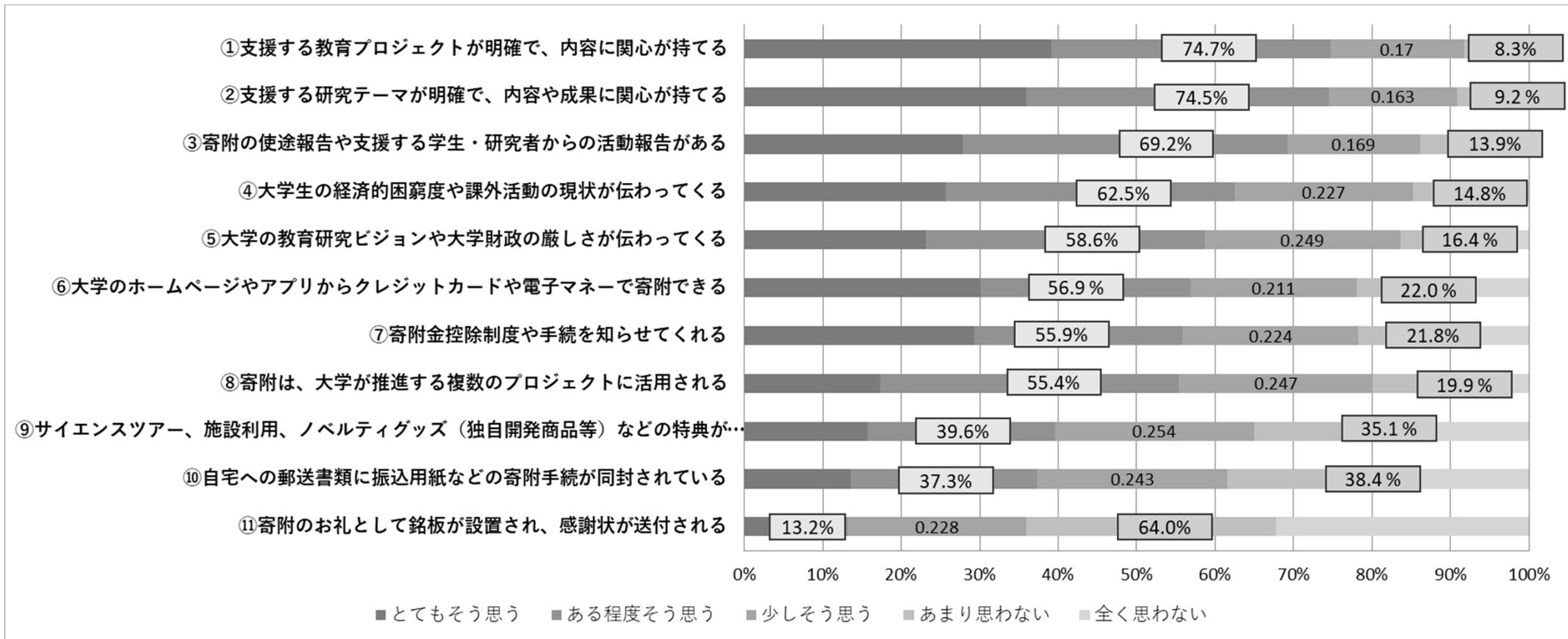
寄附を阻害する要因

- 非寄附者層の「寄附に至らない理由」の半数が「きっかけ不足」。
- 次いで、「大学の教育研究活動に対する理解不足」が挙げられる。
- 非寄附者層は、寄附者層に比べて「大学が寄附を必要とする理由がわからない」とする回答割合が高い。



将来の寄附を促進する要因

- 「支援する教育研究プロジェクトで明確で、関心が持てる」場合の寄附意向が最も高い。
- 「寄附の使途報告や学生・研究者からの活動報告」も重要視されている。
- 「大学生の経済的困窮度や課外活動の現状」など、学生生活動への寄附意向は年代を通じて高い。
- 「寄附金控除制度」への支援意向は、30～40歳代は高いが、50歳以上では低い傾向。
- 「共感」要因に比べて「返礼」要因は低い。



アンケート結果の分析まとめ

(1) 個人属性のうち、年齢、寄附経験が寄附確率を高めることが明らかになった。

(2) 大学との関係性

- 「同窓会の参加」は全体として有意であり、特に70歳以上で寄附確率を高めている。ただし、年代別にみると必ずしも有意ではない。 参加の有無のみならず、回数に着目すると、3回以上の参加者の寄附割合が高く、同窓会に一定数以上参加するような強い関係性があると寄附可能性が大幅に高まると考えられる。
- 特に20～30歳代は、「大学への愛着度」が寄附行動に作用している。
- 年代により寄附行動に影響を与える要因が異なる構造であることがわかる。

(3) 大学活動への共感との関係

- 「大学のビジョン」、「教育研究活動の社会的有益性への共感」は、寄附の有無にかかわらず全体的に共感度が高く、他の要因をコントロールすると差がつかない。
- 「用途が明確で関心が持てる教育・研究プロジェクト」に対する寄附意向は約75%。より具体的なプロジェクトへの共感により、寄附につながる可能性がある。

(4) 大学在学時の経験

- 「教育・研究指導に対する満足度」は、寄附の有無に関わらず全体的に満足度が高く(約7割)、他の要因をコントロールすると差がつかない。
- 「奨学金受給経験」は、40～60歳代で有意。一定の年齢層に達することにより、大学在学時の経験が寄附につながっていると考えられる。

(5) 寄附金控除制度・大学への寄附に対する税額控除制度の認知

- 「大学への寄附に対する税額控除税制の認知」と寄附行動の関係は、ロジスティック回帰分析により全年代で有意。因果関係までは分析できないが、税制の認知度と寄附行動の関係を示唆するものである。
- 「寄附金控除制度」が示された場合の寄附意向は、30～40歳代で高くなっている。